

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470201308		
法人名	有限会社 三聖		
事業所名	グループホーム桜園三聖		
所在地	四日市市高浜町5-7		
自己評価作成日	平成23年10月14日	評価結果市町提出日	平成24年2月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2470201308&SCD=320&PCD=24
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成23年11月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

桜園三聖では季節に合わせたイベントや、外出、出来る限り利用者の希望を取り、娯楽施設や買い物ツアーに行っています。また、地域の方の協力もあり、地域のイベントに参加させていただいたり、施設のイベントにも地域の方に参加していただいたりしています。また、ボランティアや職業体験などで地域の中学生が来園したり幼稚園児の訪問・子供達による太鼓の演奏披露なども行っています。施設としても地域に貢献できるよう、民生委員による地域の高齢者が集まるニコニコサロンにボランティアで参加し、介護予防体操やレクリエーション等を行っています。その他隣接する整体院の協力により無料マッサージもしていただいています。敷地内にある農園では無農薬野菜を栽培し利用者の方に収穫していただいています。今後もより一層地域との交流を深め、地域に密着した施設を目指し、利用者の方に安らぎのある生活を送っていただけるよう職員一同努力していきたくと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

名四国道と国道一号線に挟まれた一角に位置する事業所であり、職員の異動も少なく、利用者の24時間を把握され支援に努めている。ゆとりある生活を理念に、利用者の思いをくみ取り、支援に活かされている。地域は高齢者が多くみえ、民生委員・自治会関係者と地域住民が見守りをされている。時にはふらっと住民が立ち寄られ、利用者とおやつをとともにされる光景も見受けられる。以前には点在していた銭湯も消え、風呂問題が生じた住民に事業所が使用する時間まで、風呂を利用して頂けるよう配慮をして、数名が利用して居られる等、「地域を大切に」の気持ちが深く根付いている。地域のイベントや事業所の催し事に参加するなど、お互い交流を持つ地域密着を目指した事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者の意思を尊重し、ゆとりのある生活ができ、地域にとけこんだ生活ができることを理念にあげるとともに、名札裏に理念を入れ、日々意識しながら取り組めるよう努力している。	ゆとりある生活(暮らし)を、全職員は理念に基づきながら、利用者の立場になって考え支援している。名札の裏側に理念を明記し、支援の場で見て“理念に添っているのか”と自分自身に問いかけ、見直す機会を作っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加したり施設行事に地域の方に参加していただいたりしている。定期的に地域の幼稚園児が来園し交流もしている。自治会にも加入し、地域との交流が持てるようにしている。	自治会・地域の学校(幼・小・中)の訪問を受けたり、地域の一員として交流に努めている。地域イベントにも参加し、景品に自転車が当たり地域へ寄贈している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生委員が行っている、地域高齢者が集まるニコニコサロンに職員がボランティアで参加し、レクリエーションや認知予防、介護予防が出来るよう取り組んでいる。また、認知症サポーター要請講座の開催を施設で行った。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではサービスの状況や、今後の活動を報告し、意見交換や助言を頂いており、地域との交流や運営について話し合いができ、とてもいい機会となっている。	2か月に1回、市担当者・地域包括・在宅介護支援センター、広範囲の自治会関係者、利用者家族代表の出席のもと開催されている。地域関係者から地域の催しなどの情報を頂き、サービスの向上につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にも市職員に参加していただいているが、運営推進会議以外では、サービス提供上、疑問点や問題点があれば直接出向き相談に乗っていただいている。	行政担当者はもとより、行政からの依頼や空情報などの相談を受けたり、相互関係は築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については研修会を行っている。玄関の施錠は、日中は基本的には鍵を掛けないよう取り組んでいるが、状況に応じて施錠する場合もある。	他施設から入居された利用者がつなぎ服を使用されていた事で全職員が話し合い、見守りで使用を止められた。身体拘束はしてはいけないし、しないと全職員が認識し、支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止については研修会を行っている。また、日々利用者の様子や、身体に変化がないか注意をはらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護については、研修会を行っている。必要に応じ対応できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明をし理解していただけるようにしている。また、不安な点などがあればその都度説明させていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談・要望・苦情等の窓口を設置するとともに、外部への相談・苦情受付機関も説明し、重要事項説明書に記載している。また、家族と交流ができるよう家族会等も開催している。	家族会などへの出席は少ないが、面会時と月一回必ず来所してもらい、要望など聴く事が出来るように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々のミーティング以外にも月に一度ミーティングを開催し、職員の意見や提案を生かせるようにしている。月に一度のミーティングに関しては、意見が出やすいよう、職員が交代で進行役をしている。	日々のミーティングと月に1度のミーティングで、話し合いをしている。月一回のミーティングでは、職員に進行係をまかせた事で、職員から活発に意見など出る様になった。提案から、車椅子の利用者の食事介助について話し合いテーブルの配置を代えた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に代表者、管理者等で全体ミーティングを開催し、職員の勤務状況、現場での問題点など話し合える場を作っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内での勉強会を行ったり、他施設との合同研修会を寝ん4回開催している。また、外部への研修会も出来る限り参加できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者・施設長は、定期的に他施設との交流会・勉強会に参加している。また、年4回他施設との合同研修会を行い交流を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入時には本人と話しをし、困っていることはないか、不安に思うことはないかと特に注意し、他の利用者との関係づくりにも注意し対落ち着いた環境が作れるよう対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時、入居前には家族が困っていること、不安に思っていることを聞き、家族の意向を親身に受け止めるよう努めている。その後も定期的に家族に連絡し、医療面など報告している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時には、現状、困っていることなどをよく聞き、他サービスも含め、相談説明させていただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と利用者は支えあいながら生活できるよう、出来る限り家事を一緒にしたり、外食や娯楽施設などに一緒に行き、ともに楽しめる環境を作れるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会、イベントや外出時などに、家族にも一緒に参加していただき、共通の時間を過ごしていただけるようにしている。また、定期的に連絡を取り、話す機会を作っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人や家族の希望により、自宅に帰ったり外出したりし、地域の方も入居されているため、地域の行事にはなるべく参加できるようにしている。また、入居時面会について、沢山の方に施設を訪問していただけるようお願いしている。	併設のデイサービスを利用され入居に至った利用者の所に、デイサービス利用者が遊びに来られ交流している。また、家族の協力で法事に行かれたりし、大切な人々との関係が途切れない様に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の席など配慮できる範囲で、気の合う方同士が近くに座れるようにしている。利用者同士居室を訪問し、お話しされる姿も見られている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設を移ったり、入院したりした際には、出来る限り相談支援できるようにし、契約終了後も同様にフォローできるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から会話の中で本人の思いや希望を把握できるよう努力し、時には夜間や別室などで1対1で話す機会もある。意思の疎通が困難な場合は、表情や様子を注意して観察し、その人らしい生活ができるよう支援している。	開設時からの職員が多く、利用者の行動・表情から、思いや希望など把握している。利用者から「ちょっと聞いてよ」と言われた時は、職員はどんな時でも聴くようにしている。些細な事でも利用者の思いが言えるような支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や現在の生活状況などの把握に努めている。また、馴染みの関係を築き、その人らしい生活ができるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の状況を常に職員間で話し合い、把握に努めている。定期的にミーティング内で情報、意見交換を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティング内で介護計画検討会議を行い、意見情報をまとめ、家族や関係者と話し、介護計画を作成している。また、3ヶ月ごとにモニタリングを行っている。	月一回の介護計画検討会議や毎日行う話し合いで、意見や情報を出し合い、介護計画を作成している。また見直しは6か月ごとに行っている。職員を担当制にし、利用者との対話からも思いや意見を聞き、介護計画に取り入れている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記入した個別記録や、ミーティング・介護計画検討会議での情報を参考に介護計画を見直し作成している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の希望に応じ、病院受診や理美容院、外出などを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要に応じて民生委員や自治会・消防などと連携をとり支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医には在宅訪問診療以外にも電話連絡により連携をとり助言アドバイスをしていただいている。かかりつけ医は、本人・家族の希望で決めていただいている。	協力医の往診を受け、電話での相談や助言もして頂ける連携が出来ている。またデイサービスと兼務の看護師の24時間対応も出来、適切な医療を受けられる支援がされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の健康管理を行い、定期的に看護師が確認している。また、看護職員とは夜間も24時間オンコール体制になっているため、気づいたことは随時報告確認している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際には、居室を確保するとともに、本人・家族・病院関係者と連携を図り、スムーズな入退院につながるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や見取りについての指針を定め、利用者家族には説明をしている。重度化してきた場合は、協力医により家族に説明していただき、本人家族の意向を重視し今後の方針などを話し合うようになっている。	終末期・看取りについては家族・利用者には早い段階に説明され、協力医から家族へ説明して頂いている。利用者・家族の意向を大切に、全職員が前向きに考えている。また、看取り指針も作られている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修会や勉強会を行うとともに、緊急時対応マニュアルを作成し、日頃から職員は閲覧確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行っている。夜間を想定した避難訓練は2ヶ月に1回行っている。また、今年より、地域の災害訓練にも利用者と参加させていただいている。	夜間の避難訓練(職員のみ)を2か月に1回、消防署の立会いのもとで行う避難訓練を、6ヶ月に1回行っている。地域の災害訓練には利用者と参加している。近日中に消防署の協力で、夜間に防災訓練を行い、地域住民代表にも参加して頂く予定をしている。CTYケーブルテレビの地震予報器も取り付けしている。	災害は突然発生するので、日常の心構えが大切であり、地域住民の協力体制を得ながら繰り返し訓練する事が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護について研修会を行い、言葉掛けや対応について注意し支援を行っている。	年4回、他事業所と合同で研修会を行い、プライバシーの保護について認識し、支援に努めている。利用者の生活歴を大切に、言葉掛けなどに気を付け支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、利用者が自由に生活できるよう、レクリエーションや、洗濯・食事片付けなどは本人の希望を優先している。日中もお部屋で自由に休んだりしていただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れは決まっているが、一人ひとりの希望を大切にし、自由を束縛しないよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	買い物ツアー企画し、好きな洋服や小物・化粧品などを買っていただき、おしゃれや身だしなみができるよう支援している。また、髪型は本人の希望により、パーマや毛染めもできるようになっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段は食材業者の献立で手作りの食事を提供しているが、月に数回、鉄板焼きやバーベキューを行いみんなで作りながら食事ができる機会を作っている。メニューも利用者から希望を取り決めている。片付等も可能な方には参加いただいている。	利用者が食事作りに参加する事は難しいが、下膳など自主的に行う利用者を職員が見守っている。月2回、鉄板焼きでの調理を行っており、利用者の目の前で作る事で、主婦であったときの思いが甦る等、工夫をされている。また、屋外でのバーベキューなどは利用者の楽しみの食事である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の献立は基本的に管理栄養士が立てたものとなっている。また、摂取量等も利用者ごとに記録している。夜間も水分補給が自由にできるよう、お茶等を配っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝・夕の口腔ケアは行っているが、昼食後のケアは行っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツの必要な方でも出来る限りトイレで排泄していただけるよう声掛けや誘導をしている。また、できるだけオムツの使用はしないよう、可能な方は日中は布パンツで過ごしトイレ誘導を行っている。	布パンツ・リハビリパンツ使用の利用者がほとんどであるが、排泄のパターンを把握し、排泄は基本トイレで行う様に、見守り・声かけで自立へ向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や栄養バランスなどに注意するとともに、毎日体操を行い体を動かしていただいている。また、排便をチェックし看護師や主治医にも相談・助言していただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日によって午前・午後入浴を決めている。本人の希望があればいつでも入浴は出来る様になっているが夜間の対応は難しい。入浴回数はそれぞれで、毎日入る方や一日おきの方もみえる。入浴希望の無い方でも最低週3回は入浴していただけるよう声掛けをしている。	日中、利用者が希望すれば毎日でも可能であり、数名の利用者は入っている。拒まれる利用者でも、週3回は声掛けなどで入って頂く工夫がされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者のリズムに合わせて自室にて休んでいただいたり自由な時間を過ごしていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の情報をまとめ共有し、症状の変化があった場合は主治医に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりの出来る事、得意とすることを見つけ、洗濯や食事の片付け・お花などを力を発揮できるように支援している。また、趣味で塗り絵や歌などを楽しめる時間も作っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やイベント等で外食・娯楽施設・地域イベントなどで定期的に出かけている。毎日すべての利用者の希望にそっての外出は出来ないが、家族の協力により買い物やお墓参り・自宅などに行ったりしている。	外気浴をかねた毎日の散歩や、四季を五感で感じて頂く様、花見・地域のイベントに参加したり、中学校(地域)の文化祭にも出掛けたりしている。利用者が好まれる大衆演芸場では、ショーを見ながら食事(外食)をし、入浴を済ます工夫がされている。利用者の自宅へ近日柿を取りに行かれる予定もされている。法事・墓参りなどは家族の協力のもとで出掛けられている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段の金銭管理については家族と相談し、可能な方にはお金を持っていただき、使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者一人ひとりの状態により対応しているが、希望があれば電話等できるようになっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関・居間・食堂にはイベント時の写真や、みんなで作った作品等を飾り明るい雰囲気を作れるように努めている。去年より金魚も飼い始めた。	日中、ほとんどの利用者が過ごすリビングは、窓越しから入る柔らかい日差しを受け、落ち着いて過ごせる工夫がされている。大きなカレンダーには、利用者が楽しみにしている鉄板焼きの日が記入され、得てして忘れがちな見当識への配慮がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	中庭にはテーブルを置きお茶を飲める空間を作っている。2階には畳スペースもありテレビを見ながらくつろげる空間もある。廊下にもソファを設置した。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人や家族の希望で、テレビや冷蔵庫・家具を自由に持ってきていただいている。食事の時の湯飲みやお茶碗・お箸などもそれぞれ使い慣れたものを持ってきていただいている。	居室内に洗面台が置かれ、食後の口腔ケアなど人目を気にせず行う事が出来る。使い慣れた家具など持ち込まれ、利用者が落ち着いて暮らせるようにしている。シンプルではあるが、整理整頓がされている。鏡に向かい身づくろいされる利用者がうかがえる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物はバリアフリーになっており、必要箇所に手すりを設置している。また、利用者の状態に合わせて手すりや杖、シルバーカー・ポータブルトイレなどを使って自立した生活ができるよう支援している。		